

中央区内景气动向调查

令和5年12月调查结果

令和6年1月31日

中央区

総 括

令和5年12月の動き

中央区内における12月の現状判断D Iは合計で54.9と、前回調査から8.9ポイント低下している。景気の先行き判断D Iは合計で56.5と、前回調査から2.5ポイント低下している。

図表 景気の現状判断D I、先行き判断D I（合計）

(D I)	令和5年			前回調査 からの変化
	8月	10月	12月	
合計				
現状判断D I	62.8	63.8	54.9	(-8.9)
先行き判断D I	59.6	59.0	56.5	(-2.5)

目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由	6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由	8 頁
（別紙）調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
(1) 家計動向関連	
(2) 企業動向関連	

調査の概要

1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した50人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1)の理由
- (3) (2)の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4)の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

4 調査月及び調査期間等

調査月は年6回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約1週間で、令和5年12月調査の調査票発送は12月7日（木）、回答期限は12月18日（月）である。

5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である株式会社日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

6 有効回答率

調査客体50名に対し、有効回答客体は46名、有効回答率は92.0%であった。

7 DIの算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、DIを算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

2 景気の先行きに対する判断

2～3か月先の中央区内における景気の先行き判断D Iは合計で56.5と、前回調査から2.5ポイント低下している。分野別にみると、家計動向関連D Iは58.0と、前回調査から9.0ポイント低下し、企業動向関連D Iは55.2と、前回調査から3.2ポイント上昇している。構成比では、「変わらない」と回答した人の割合が5.4ポイント減少し、「やや悪くなる」と回答した人の割合が4.5ポイント増加した。

図表2 - 1 各分野における景気の先行き判断D Iの推移表

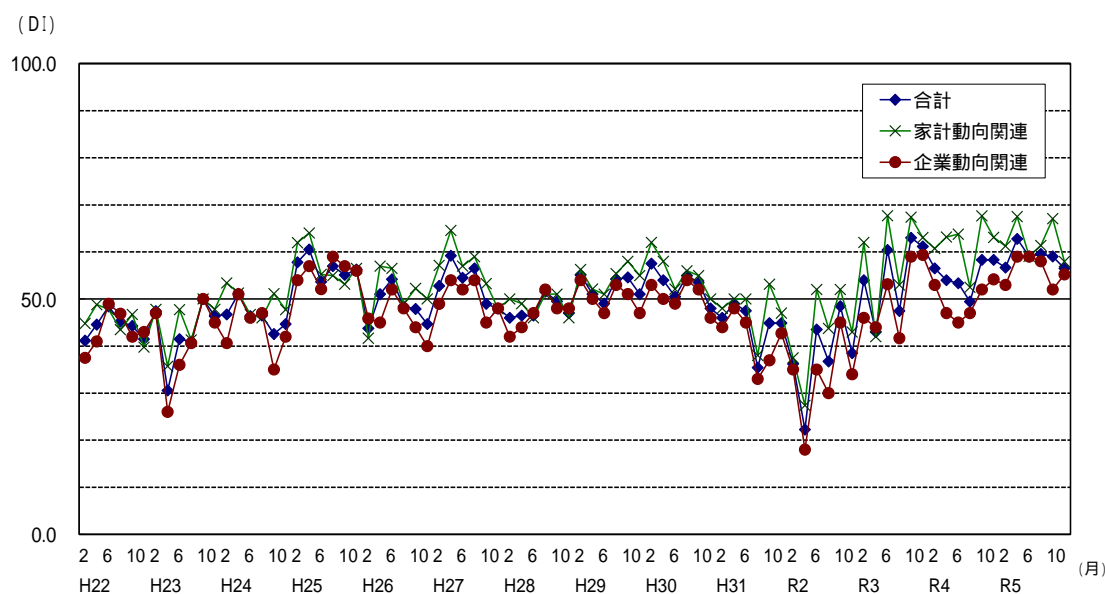
(D I)	令和5年			
	8月	10月	12月	(変化幅)
合計	59.6	59.0	56.5	(-2.5)
家計動向関連	61.4	67.0	58.0	(-9.0)
小売関連	62.5	66.7	56.3	(-10.4)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	62.5	62.5	62.5	(0.0)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	58.0	52.0	55.2	(3.2)
製造業	60.0	50.0	40.0	(-10.0)
非製造業	57.5	52.5	59.2	(6.7)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表2 - 2 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
令和5年	8	8.5%	31.9%	48.9%	10.6%	0.0%
	10	6.4%	34.0%	51.1%	6.4%	2.1%
	12	6.5%	32.6%	45.7%	10.9%	4.3%
(変化幅)		(0.1)	(-1.4)	(-5.4)	(4.5)	(2.2)

図表2 - 3 各分野における景気の先行き判断D Iの推移



3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気的水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表3 - 1 各分野における景気の現状水準判断D Iの推移

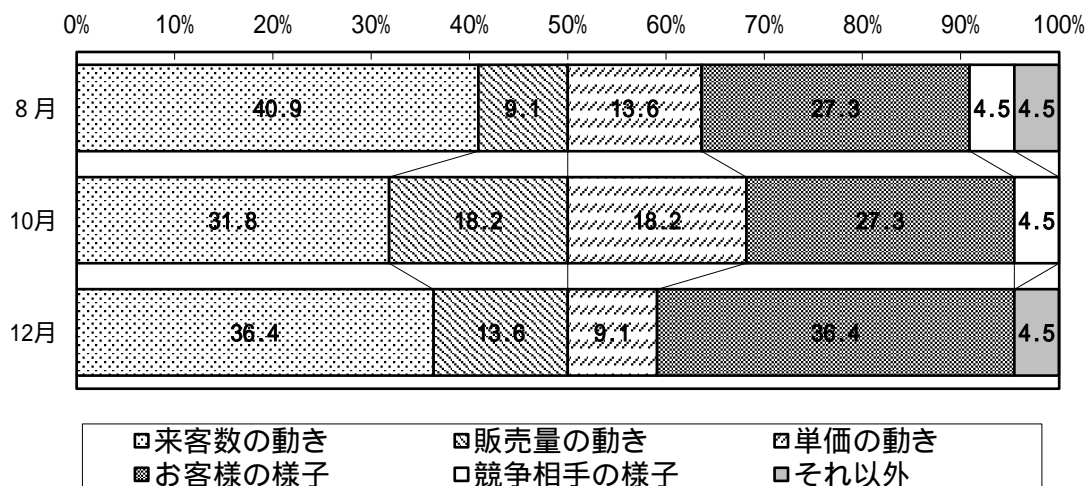
(D I)	令和5年		
	8月	10月	12月
合計	55.9	60.1	56.0
家計動向関連	60.2	71.6	63.6
小売関連	64.6	68.8	60.4
飲食関連	-	-	-
サービス関連	66.7	75.0	62.5
住宅関連	-	-	-
企業動向関連	52.0	50.0	49.0
製造業	50.0	50.0	40.0
非製造業	52.5	50.0	51.3

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

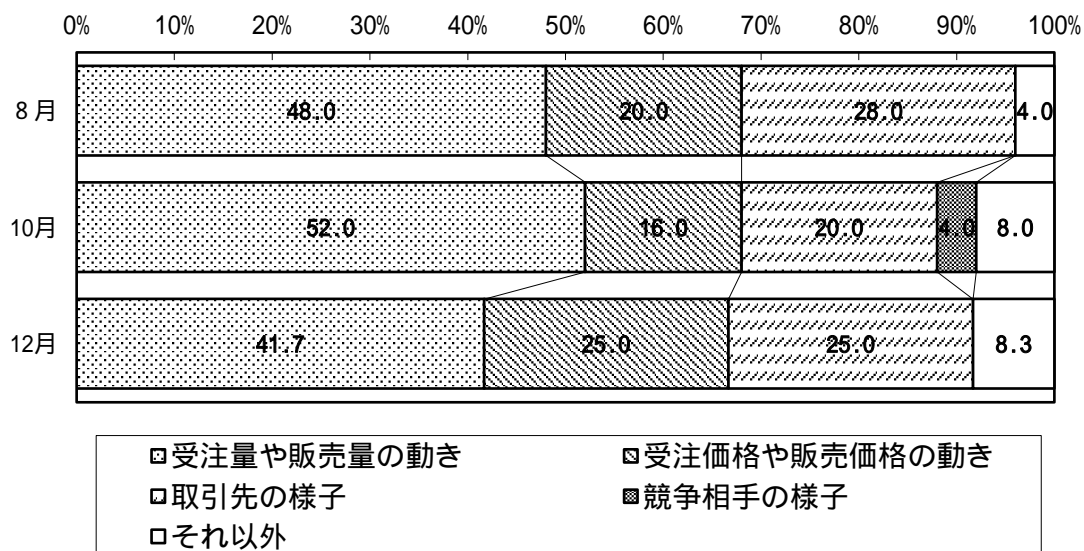
(注)景気の現状をとらえるには、景気の方加性に加えて、景気的水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

4 (1) 景気の現状に対する判断理由着目点

家計動向関連



企業動向関連



注) 本グラフは景気の現状に対する判断理由着目点の構成比を示している。
割合が0%の場合、数値は表記していない。

4 (2) 景気の現状に対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良くなっている				
	やや良くなっている	百貨店(広報担当)	お客様の様子	・高付加価値消費の底堅さが継続している。新型コロナウイルス感染症に縛られない年末年始に向けて、対面機会の増加などによるニーズが上昇している。インバウンドの上昇基調も継続している。	
		百貨店(総務担当)	来客数の動き	・来客数は前年比7~8%増で推移している。新型コロナウイルス感染症発生前と比べても95%程度まで回復している。インバウンドについても引き続き好調である。	
		スーパー(店長)	それ以外	・インバウンド需要がある。	
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・来客数が前年比130%と増加している。インバウンドの来客数は前年比260%と大幅に伸びており、単価も大きく上昇している。	
		高級レストラン(経営者) 都市型ホテル(経営者)	お客様の様子 単価の動き	・前年比で予約数が増加している。特に、忘年会等の予約は11月頃から問合せが多くなっている。 ・来客数の増加と客単価の上昇による相乗効果が顕著に現れている。	
	変わらない	一般小売店[文具](販売担当)	来客数の動き	・欧米客の購買意欲を感じる。買上単価も毎月上昇している。	
		百貨店(総務担当)	販売量の動き	・引き続き、円安を背景に海外からの客でにぎわっている。また、富裕層を軸にした国内客の動向も堅調である。	
		乗用車販売店(店長)	来客数の動き	・来客数が少なく、販売台数も毎月大きな変化はない。逆に、カーシェアリングの利用は好調で、シェア会員数が増えている。	
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・観光客は少なくなっているものの、修学旅行が例年になく増えているので、変わらない。	
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、海外からの来場者が多く、オーバーツーリズムではないかと感じている。大変結構ではあるが、他の問題で悩ましい。	
		通信会社(営業担当) 理容室(経営者)	お客様の様子 お客様の様子	・特段良い話も悪い話も出てこない。 ・新規の来客数が横ばいである。インバウンドの来店客が少し減っている。	
	やや悪くなっている	一般小売店[事務用品](営業担当)	販売量の動き	・消耗品と呼ばれる低単価商材の動きは余り良くない分、高単価商材が少し動いている。トータルでは少し下がっている。	
	悪くなっている				
	企業 動向 関連	良くなっている	通信業(営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・最近、システム更改を本格的に検討する客が増加している。
		やや良くなっている	建設業(経営者)	取引先の様子	・受注量がこのところかなり上向いている。
不動産業(企画担当)			受注価格や販売価格の動き	・オフィスビルに関しては、リモートワークの限界及びリアルコミュニケーションの重要性が再認識され、拡張ニーズが旺盛で、空室率は低下傾向である。また、商業店舗に関しては、飲食店舗等の売上は新型コロナウイルス感染症発生前を上回っており、店舗区画に対する引き合いも大変旺盛である。	
変わらない		出版業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・経済が回復しているといわれるが、販売量も販売価格もじり貧である。	
		輸送業(従業員)	受注量や販売量の動き	・受注量に変化がない。	
		卸売業[機械器具](経営者)	受注量や販売量の動き	・このところ年末でも受注量が特別に増える傾向にない。	
		卸売業[機械器具](営業担当)	受注量や販売量の動き	・受注のタイミングが少し遅れ気味で、この時期にしては受注量が少ない。	
経営コンサルタント	受注価格や販売価格の動き	・物価が上がり、国内客が減少している反面、外国人客が増加しているので、売上は維持できている。			

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや悪くなっている	新聞業（営業担当）	取引先の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・ここに来て春先の見通しよりもやや悪くなっており、前年比では依然として回復には至っていない。 ・盛り場を歩いている人々の表情に、ボーナス支給月の明るさがみられない。物価の上昇からくる財布のひもの引き締めが念頭にあるのではないが。 ・3か月前と比較すると、予算に対しての売上が20%程度落ち込んでいる。 ・短期の装飾など、必須でない商材に対する客の予算が以前より下がっている。
		出版業（経営者）	それ以外	
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	
		その他サービス業〔造園・園芸〕（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	
	悪くなっている			

4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

(- : 回答が存在しない、○ : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	一般レストラン(経営者)	・年末を迎え、1年の締めくくりである12月は一番売上が伸びる月である。来年に続けたい。
		一般小売店[事務用品](営業担当)	・これから年度末を迎えるので動きは良くなるが、例年と比べてどうなるか心配である。
	やや良くなる	一般小売店[文具](販売担当)	・現状、売上、単価、来客数とインバウンドを中心に伸長している。国内客、中国人客が増加する予測があるため、高止まりの状態のまま、やや良くなる。
		百貨店(総務担当)	・新型コロナウイルス感染症の影響が一巡するまで、もう少し回復基調が続くのではないかと。
		スーパー(店長)	・コロナ禍から経済が回復する。
		都市型ホテル(経営者)	・日本経済の根本は弱含みのところがあるが、外国人客の増加が多いと認められるので、それを補っている。
		都市型ホテル(営業担当)	・クリスマス、年末年始の動向は良いが、年明け以降の動きをもう少し注視したい。
		旅行代理店(店長)	・新年の始まりへの期待感がある。3月に北陸新幹線が福井県へ延伸する。
		通信会社(営業担当)	・ユーザーから余り後ろ向きな発言が出ない。次年度以降の計画も伝えてもらえる。
		変わらない	一般小売店[和菓子](経営者)
	一般小売店[食品](店長)		・人の流れが安定している。物価高は感じるものの、特にこれといった変化はなさそうである。
	百貨店(総務担当)		・クリスマス、年末年始等の各種オケーションに加え、インバウンドについてはしばらく円安が続く見通しにより、好調な動向が継続する。
	百貨店(広報担当)		・大きな上昇はないが、高付加価値消費が衰える材料はない。インバウンドニーズももう一段上がってくる要素がある。足元のインフレにより高額品は今買うべきというマインドが高い。
	コンビニ(店長)		・値上げによる単価アップに対し、買上点数の減少という自衛の動きがあり、結果として売上実績が横ばいとなっている。
	乗用車販売店(店長)		・自動車は電動化、ハイブリッド車の時代へ突入するため、客は慎重である。自動車販売において、景気回復はまだ先である。
一般レストラン(経営者)	・先のことはまだ分からない。インフルエンザや新型コロナウイルス感染症が流行しなければ良い。		
理容室(経営者)	・新規客は増えないものの、客単価は上がっている。		
やや悪くなる	高級レストラン(経営者)	・宴会シーズンが終了すると通常の営業状態に戻り、売上の例年並みになると予測している。	
	競馬場(職員)	・物価上昇が止まらない。	
悪くなる	衣料品専門店(店長)	・物価は上がっているものの、給料が上がらない。	
企業 動向 関連	良くなる	卸売業[飲食品(鮮魚)](経営者)	・他の都内の商業地に比べ、当地は圧倒的に日本らしきがあり、インバウンドが続く。築地に比肩するのは浅草、新宿ゴールデン街くらいである。
		卸売業[機械器具](営業担当)	・年度末納入の物件が出始めている。売値の値上げが認められるようになってきている。
	やや良くなる	印刷業・製本業(営業担当)	・例年、年度末に向かって仕事量が増加する。
		建設業(営業担当)	・仕事量が増加する。
		建設業(経営者)	・新型コロナウイルス感染症の沈静化に伴い、人や物の流れが活発化してきており、全体的に上昇機運が感じられる。
		通信業(営業担当)	・取引先の様子から、コロナ禍の影響も落ち着き、どのように業務を進めるべきか、各社において方針が見えてきたと感じる。無駄がなくなってきたのではないだろうか。
		不動産業(企画担当)	・分譲マンションの販売が堅調である。特に、高額物件については国内実需のみならず、海外からの引き合いも活発である。人件費や建築資材の高騰もあり、当面、価格の下落は起こらない。
その他サービス業[ビルメンテナンス](営業担当)	・ここ数か月が著しく悪かったことと、通常の年度末にかけての安定的な受注業務等が見込めるため、やや良くなる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	新聞業（営業担当）	・取引先の業種によっては回復の兆しも見えるが、限定的な動きであるため、当面はダウントレンドが続く見通しである。
		建設業（経営者）	・受注量は増えているが、資材等の高騰により利益率は伸びていかない。
		輸送業（従業員）	・前月と比べて受注量が変わらない。
		金融業〔証券〕（営業担当）	・東京都における高校授業料の実質無償化や、政府による定額減税策等を見たとき、確かに「生産労働人口の減少」というマクロ経済面の課題に対する方策としては一理ある。しかし、東京においてははもとも労働賃金が地方に比べて高いなかで、諸々の資材価格上昇により、給与を支払う企業側の体力が追い付いていない状況であり、足元ではこのバランスに対する有効策は打たれていないように感じられることから、当面の景況という点では大きな改善は難しい。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（経営者）	・同業者の廃業の噂を聞いている。需給バランスは改善するかもしれないが、そもそも需要が低迷している。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	・値上げのせいか動きが悪い。
		卸売業〔機械器具〕（支社長）	・物価が高止まりしている。
		経営コンサルタント	・定期昇給前なので、それほど大きく消費が変化するとは考えにくい。外国人客が増加している状態は継続して、経済が刺激される。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（管理担当）	・景気変動する要素はない。
		その他サービス業〔造園・園芸〕（営業担当）	・仕入先の値上げが続いている。コロナ禍から受注は増えているが、単価は余り上がっていない。
やや悪くなる		出版業（経営者）	・人々の表情に、ボーナス支給月の明るさがみられない。物価の上昇からくる財布のひもの引き締めがあるので、先行きはやや悪くなる。
		出版業（営業担当）	・インバウンドが好調で、飲食を始め全ての物が高くなっている。中小企業の従業員は賃上げ、ボーナス支給が抑えられているため、生活が苦しい。
		印刷業・製本業（経営者）	・中国を含めて一部の国で経済状況が悪化しており、その余波が国内にも来るとみている。特に、製造業に影響がある。
悪くなる		建設業（営業担当）	・受注が伸びない。

(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)
合計		50
家計動向関連		25
	小売関連	15
	商店街・一般小売店	5
	商店街代表者	0
	一般小売店経営者・店員	5
	百貨店	4
	百貨店売場主任・担当者	4
	スーパー	2
	スーパー店長・店員	2
	コンビニエンスストア	1
	コンビニエリア担当・店長	1
	衣料品専門店	2
	衣料品専門店経営者・店員	2
	家電量販店	0
	家電量販店経営者・店員	0
	乗用車・自動車備品販売店	1
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	1
	その他小売店	0
	住関連専門店経営者・店員	0
	その他専門店経営者・店員	0
	その他小売の動向を把握できる者	0
	飲食関連	4
	高級レストラン経営者・スタッフ	2
	一般レストラン経営者・スタッフ	2
	スナック経営者	0
	その他飲食の動向を把握できる者	0
	サービス関連	6
	旅行・交通関連	3
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2
	旅行代理店経営者・従業員	1
	タクシー運転手	0
	通信会社	1
	通信会社社員	1
	レジャー施設関連	1
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0
	ゴルフ場経営者・従業員	0
	パチンコ店経営者・従業員	0
	競輪・競馬・競艇場職員	1
	その他レジャー施設職員	0
	その他サービス	1
	美容室経営者・従業員	1
	その他サービスの動向を把握できる者	0
	住宅関連	0
	設計事務所所長・職員	0
	住宅販売会社経営者・従業員	0
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0
	その他家計の動向を把握できる者	0
企業動向関連		25
	農林水産業従業者	0
	鉱業経営者・従業員	0
	製造業経営者・従業員	5
	食品製造業	0
	繊維工業	0
	家具及び木材木製品製造業	0
	パルプ・紙・紙加工品製造業	0
	出版・印刷・同関連産業	5
	新聞業	1
	出版業	2
	印刷業・製本業	2
	その他出版・印刷・同関連産業	0
	化学工業	0
	石油製品・石炭製品製造業	0
	プラスチック製品製造業	0
	窯業・土石製品製造業	0
	鉄鋼業	0
	非鉄金属製造業	0
	金属製品製造業	0
	一般機械器具製造業	0
	電気機械器具製造業(精密機械を含む)	0
	輸送用機械器具製造業	0
	その他製造業	0
	非製造業経営者・従業員	20
	建設業	4
	輸送業	1
	通信業	2
	金融業	2
	不動産業	1
	卸売業	6
	繊維・衣服等	2
	飲食品	1
	建築材料・鉱物・金属材料等	0
	機械器具	3
	その他卸売業	0
	サービス業	4
	広告代理店・新聞販売店[広告]	0
	司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等	1
	コピーサービス業	0
	その他サービス業	3
	その他非製造業	0
	その他企業の動向を把握できる者	0